

Date: Fri, 25 Feb 2011 20:43:51 +0900

日本数学会応用数学分科会評議員  
池田先生, 小俣先生, 山本先生  
cc 小田先生, 石渡先生, 樋口先生, 山下先生

今年度の応用数学合同研究集会の取りまとめをやっております  
横浜国大の中本と申します。

20年以上継続しております比較的大きな応用数学に関する  
「応用数学合同研究集会」の位置付けの確保, また,  
日本数学会応用数学分科会のますますの発展について,  
以下の提案をいたしたいと思っております。

ご審議のほど, よろしく願い申し上げます。

中本敦浩  
横浜国立大学  
教育人間科学部 数学教育講座  
〒240-8501  
横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-2  
Email:nakamoto@ynu.ac.jp

=====  
<提案>

日本数学会応用数学分科会と応用数学合同研究集会が  
応用数学分野のさらなる発展を目指すため,  
それぞれの会が持つ特性を活かしつつ, 連関を図る。  
なお, 同様の提案を日本応用数理学会にも行う予定である。

<理由>

当該研究集会は, 比較的大きな著名な研究会であり,  
代表者近辺の応用数学関係者には根幹を占めるものである  
(「追記」を参照)。  
しかし, 数学以外の分野から見られたときに  
"各種学会とはなんら関係のない個人研究会"として扱われる故に  
せつかくの講演実績の評価が低くなる傾向がある,  
という報告が運営委員の中からなされた。  
これは昨今の競争的資金の獲得や若手研究者の就職などといった  
各種分野を交えた中での競争においては残念なことといえる。  
また一方で, 日本数学会応用数学分科会委員経験者より,  
日本数学会の各分科会において分科会を代表する  
総合シンポジウム(大シンポとも呼ばれる)が存在しないのは  
応用数学分科会だけである,  
という事実の指摘(下記<<資料>>も参照)もされた。  
以上の2つの点に対して, 「応用数学合同研究集会」と  
日本数学会応用数学分科会, さらに日本応用数理学会との連関が,  
解決の一步となると考えられる。

<当該研究集会の意向>

日本数学会応用数学分科会/日本応用数理学会と連関を持つが,  
当該研究集会代表者は, 従来 of 延長として広い意味で応用数学に  
従事する者と解釈し, それぞれの会員に限定しないものとする。  
さらに参加者, 講演者ともにそれぞれの会員には限定せず,  
講演者は現状と同じく代表者の承諾の下で広く受け入れる。

<日本数学会応用数学分科会との連携における具体的方針>

○連携や提携程度の格付けにしたい:  
日本数学会応用数学分科会による「主催」という格付けにしまうと,  
分科会所属会員の同意のとりつけや,  
当該研究集会の参加者に数学会会員への制限などが危惧される。  
前述の<意向>に則した適切な格付けを示す単語として  
提携, 連携, 協力, 後援  
などが挙げられるが, 文言の選択に関しては,  
日本数学会の事情に合わせるものとする。

○応用数学合同研究集会から分科会へ協力できると考える事項:

- ・応用数学合同研究集会の講演申込者に対し、「応用数学合同研究集会報告集」の原稿の締切告知の際に、日本数学会の一般講演申込み締切についてもアナウンスする。
- ・応用数学合同研究集会報告集の表紙に分科会(と日本応用数理学会)との"協力"関係を記載。
- ・「応用数学合同研究集会報告集」最後のページあたりに日本数学会(と日本応用数理学会)の今後の開催日程等を記載する。(記載内容の詳細については、必要があれば当該研究集会運営委員、連絡責任者である分科会委員および各学会担当者と協議のうえ決定)

○分科会から応用数学合同研究集会へのご協力をお願いしたい事項:

- ・応用数学合同研究集会報告集の表紙に日本数学会応用数学分科会と日本応用数理学会との"協力"関係の記載を許可。
- ・日本数学会の分科会 web ページでの、応用数学合同研究集会のアナウンスおよび当該研究集会の web ページへのリンク張り。
- ・秋の数学会の分科会会場での分科会委員による応用数学合同研究集会の日程等のアナウンス。

<<資料>>

「分科会関連の研究集会シンポジウム」  
(日本数学会公式 web-site 分科会のリスト

<http://mathsoc.jp/section/>より)

- ・数学基礎論および歴史分科会: 数学基礎論サマースクール, 数学基礎論若手の会
- ・代数学分科会: 代数学シンポジウム
- ・幾何学分科会: 幾何学シンポジウム
- ・函数論分科会: 函数論シンポジウム
- ・函数方程式分科会: 研究集会「微分方程式の総合的研究」
- ・実函数論分科会: 実解析学シンポジウム, 実函数論函数解析学合同シンポジウム
- ・函数解析学分科会: 実函数論函数解析学合同シンポジウム
- ・統計数学分科会:  
統計学関係: (大シンポに対応するものは不明だが幾つか存在)  
確率論関係: 「確率論シンポジウム」(通称「大シンポジウム」)
- ・応用数学分科会: なし(セミナー情報は解析系のみ)
- ・トポロジー分科会: トポロジーシンポジウム

「追記: 応用数学合同研究集会について」

応用数学合同研究集会は、1980年代前半に、当時の科研費総合研究の応用数学関係諸班をまとめた共同の研究集会開催の趣旨で、故山口昌哉京大教授(当時)が中心になって旗上げをしたものであり、当初は京都大学で毎年開催されていた。その後は会場を龍谷大学に移し、科研費基盤研究の関係者が合同する形で例年離散系と解析系のふたつのセッションで行われており、予稿集も兼ねた報告集が毎年関係者の予算により発行されている。応用数学関係者にとっては、いわば歳末の年中行事といえるのが現状である。研究集会自体は、3日間行われ、離散系解析系とも例年それぞれ40件程度の講演があり、参加者も全体で100人を優に越えている。また、並行して開催される両セッションの交流をはかるべく、3年前より全参加者が集う約90分の合同セッションも開催している。歴史をまとめたものはないものの、一松信京大名誉教授によって報告された文章(応用数理 15(2), 181-182, 2005-06-24, 日本応用数理学会)を参考資料として挙げさせていただく。

<http://ci.nii.ac.jp/naid/10016594332>

=====